



# CHAPTER 4

## 仮想スイッチの管理

この章では、Cisco Data Center Network Manager (DCNM) を使用した仮想スイッチの管理方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「仮想スイッチの概要」 (P.4-1)
- 「仮想スイッチのライセンス要件」 (P.4-3)
- 「前提条件」 (P.4-4)
- 「プラットフォーム サポート」 (P.4-4)
- 「ドメインの設定」 (P.4-4)
- 「サーバ接続の設定」 (P.4-9)
- 「ネイバー デバイスの表示」 (P.4-12)
- 「制御インターフェイスの設定」 (P.4-13)
- 「仮想スイッチのモニタリング」 (P.4-14)
- 「フィールドの説明」 (P.4-14)
- 「その他の参考資料」 (P.4-16)
- 「仮想スイッチ機能の履歴」 (P.4-17)

## 仮想スイッチの概要

Cisco Nexus 1000V は VMware vSphere 4.0 と連携する仮想アクセス ソフトウェア スイッチで、次のコンポーネントで構成されます。

- Virtual Supervisor Module (VSM) : スイッチのコントロール プレーンと、Cisco NX-OS システムを実行する仮想マシン。
- Virtual Ethernet Module (VEM) : 各 VMware vSphere (ESX) ホストに埋め込まれた仮想ラインカード。

仮想スイッチの管理には、ドメインやサーバ接続の設定などがあります。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 「ドメイン」 (P.4-2)
- 「サーバ接続」 (P.4-3)

## ドメイン

ドメインは、VMware vCenter サーバ内にデュアル冗長 Virtual Supervisor Module (VSM) および管理対象の Virtual Ethernet Module (VEM) を含む Cisco Nexus 1000V デバイスのインスタンスです。各ドメインは、ドメイン ID と呼ばれる一意の整数で識別する必要があります。

VSM と VEM 間の通信には、レイヤ 2 またはレイヤ 3 の転送制御モードを設定できます。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 「レイヤ 2 制御」(P.4-2)
- 「レイヤ 3 制御」(P.4-2)

### レイヤ 2 制御

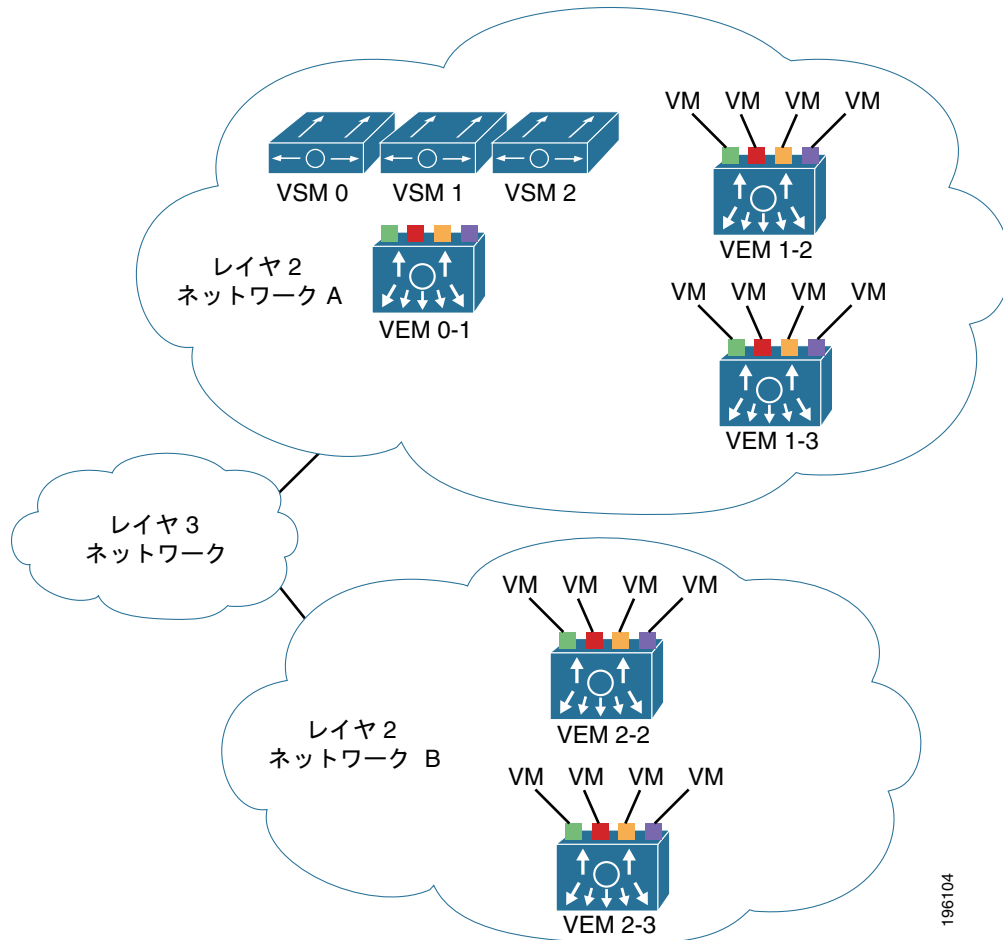
レイヤ 2 は、VSM と VEM 間の通信に使用される転送制御モードです。ただし、作成および指定できるのは、使用する VLAN です。

### レイヤ 3 制御

レイヤ 3 制御、つまり IP 接続は、制御トラフィックおよびパケットトラフィック用の VSM と VEM 間でサポートされています。レイヤ 3 制御を使用すると、VSM はレイヤ 3 でアクセス可能で、制御ホストを個別のレイヤ 2 ネットワークに保管できます。ただし、その場合も、同じ VSM によって制御されるホストはすべて同じレイヤ 2 ネットワーク内に存在する必要があります。VSM は、自身が制御するレイヤ 2 ネットワークの外にあるホストの制御はできないので、VSM 自身が存在するホストは別の VSM によって制御する必要があります。

図 4-1 に、VSM0 が VEM\_0\_1 を制御するレイヤ 3 制御の例を示します。同様に、他のレイヤ 2 ネットワークで VEM\_0\_1 が VSM1 と VSM2 をホストし、VSM1 と VSM2 が VEM を制御します。

図 4-1 レイヤ3 制御 IP 接続の例



196104

## サーバ接続

Nexus 1000V デバイスには、Distributed Virtual Switch (DVS; 分散仮想スイッチ) および Virtual Ethernet Module (VEM) へのホスト マッピングを管理するための VMware vCenter サーバへの接続が必要です。

## 仮想スイッチのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco DCNM	仮想スイッチ機能にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能は Cisco DCNM にバンドルされており、無料で提供されます。Cisco DCNM LAN エンタープライズ ライセンスの取得とインストールの詳細については、『Cisco DCNM Installation and Licensing Guide, Release 5.x』を参照してください。
Cisco NX-OS	仮想スイッチ機能にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。使用しているプラットフォームでの Cisco NX-OS ライセンス スキームの詳細については、プラットフォームのライセンスに関するガイドを参照してください。

## 前提条件

Cisco DCNM で仮想スイッチ機能を使用するには、次の前提条件が必要です。機能固有の前提条件については、プラットフォームのマニュアルを参照してください。

- 仮想スイッチ機能のシステム メッセージ ログレベルは、Cisco DCNM 要件を満たすか上回る必要があります。デバイス検出時に、ログレベルが不適切であることが検出された場合は、最低限必要なレベルまで Cisco DCNM によって自動的に引き上げられます。Cisco NX-OS Release 4.0 を実行する Cisco Nexus 7000 シリーズ スイッチは例外です。Cisco NX-OS Release 4.0 の場合は、デバイスの検出を行う前に、コマンドライン インターフェイスを使用して Cisco DCNM の要件を満たすか、上回るようにログレベルを設定してください。詳細については、『Cisco DCNM Fundamentals Guide, Release 5.x』を参照してください。

## プラットフォーム サポート

この機能は、次のプラットフォームでサポートされています。注意事項や制約事項、システムのデフォルト値、コンフィギュレーションの制限などに関するプラットフォーム固有の情報については、対応するマニュアルを参照してください。

プラットフォーム	マニュアル
Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチ	<a href="#">Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチのマニュアル</a>

## ドメインの設定

Cisco DCNM ではドメインを設定できます。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 「[レイヤ 2 制御によるドメインの作成](#)」 (P.4-5)
- 「[レイヤ 3 制御によるドメインの作成](#)」 (P.4-6)
- 「[ドメインのレイヤ 3 制御への変更](#)」 (P.4-6)
- 「[ドメインのレイヤ 2 制御への変更](#)」 (P.4-7)
- 「[コントロール VLAN によるドメインの設定](#)」 (P.4-8)
- 「[パケット VLAN によるドメインの設定](#)」 (P.4-8)

## レイヤ 2 制御によるドメインの作成

Virtual Supervisor Module (VSM) および Virtual Ethernet Module (VEM) を識別し、通信および管理のためのコントロール VLAN およびパケット VLAN を追加する Cisco Nexus 1000V シリーズスイッチのドメイン名を作成できます。このプロセスは、初期インストールプロセスの一部です。初期セットアップ後にドメインを作成する必要がある場合は、この手順を使用して実行できます。

### はじめる前に

複数の VSM が同じコントロール VLAN およびパケット VLAN、またはそのいずれかを共有している場合、ドメインは各 VSM が管理している VEM の識別に役立ちます。

このインスタンスには、一意のドメイン ID を指定する必要があります。

制御トラフィックに 1 つの VLAN を使用し、パケットトラフィックに異なる VLAN を使用することを推奨します。

ドメインごとに個別の VLAN を使用することを推奨します。

2 番目の VSM を追加した後のドメイン ID の変更については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
  - ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
  - ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
  - ステップ 5** (任意) メニューバーから、[Actions] > [Reset Domain Setting(s)] を選択します。
  - ステップ 6** [Domain ID] フィールドに、ドメインの ID 番号を入力します。
  - ステップ 7** 制御モードのドロップダウンリストで、[L2] を選択します。  
レイヤ 2 制御はデフォルトで、コントロール VLAN およびパケット VLAN に VLAN 1 を使用します。必要に応じて、特定のコントロール VLAN およびパケット VLAN をドメインに設定できます。「[コントロール VLAN によるドメインの設定](#)」(P.4-8) および「[パケット VLAN によるドメインの設定](#)」(P.4-8) を参照してください。
  - ステップ 8** メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

## レイヤ 3 制御によるドメインの作成

Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチの Virtual Supervisor Module (VSM) および Virtual Ethernet Module (VEM) を識別するドメイン名を作成できます。この処理は、ソフトウェアをインストールする際の初期セットアップの一部です。初期セットアップ後にドメインを作成する必要がある場合は、この手順を使用して実行できます。

### はじめる前に

IP アドレスで使用する予定のインターフェイス (mgmt 0 または control 0) を設定します。詳細については、「[制御インターフェイスの設定](#)」(P.4-13) を参照してください。

レイヤ 3 制御のポート プロファイルを設定します。『*Interfaces Configuration Guide, Cisco DCNM for LAN, Release 5.x*』を参照してください。

各ホストに VMware kernel NIC インターフェイスを作成し、そのインターフェイスにレイヤ 3 制御ポート プロファイルを適用します。詳細については、VMware のマニュアルを参照してください。

このインスタンスに一意のドメイン ID が指定されていることを確認します。

2 番目の VSM を追加した後のドメイン ID の変更については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
  - ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
  - ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
  - ステップ 5** (任意) メニュー バーから、[Actions] > [Reset Domain Setting(s)] を選択します。
  - ステップ 6** [Domain ID] フィールドに、ドメインの ID 番号を入力します。
  - ステップ 7** 制御インターフェイスのドロップダウン リストで、使用するインターフェイスとして [mgmt0] または [control0] のいずれかを選択します。
  - ステップ 8** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
- 

## ドメインのレイヤ 3 制御への変更

Virtual Supervisor Module (VSM) ドメインの制御トラフィックおよびパケット トラフィックの制御モードをレイヤ 2 からレイヤ 3 に変更できます。

### はじめる前に

IP アドレスで使用する予定のインターフェイス (mgmt 0 または control 0) を設定します。詳細については、「[制御インターフェイスの設定](#)」(P.4-13) を参照してください。



(注) この作業の各手順を順番に実行する必要があります。レイヤ 3 制御をイネーブルにする前に、コントロール VLAN およびパケット VLAN をディセーブルにする必要があります。

### 手順の詳細

- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
- ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5** [Control VLAN] フィールドで、コントロール VLAN として使用する VLAN の番号を削除します。
- ステップ 6** [Packet VLAN] フィールドで、パケット VLAN として使用する VLAN の番号を削除します。
- ステップ 7** メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
- ステップ 8** 制御モードのドロップダウンリストで、[L3] を選択します。
- ステップ 9** 制御インターフェイスのドロップダウンリストで、使用するインターフェイスとして [mgmt0] または [control0] のいずれかを選択します。
- ステップ 10** メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

## ドメインのレイヤ 2 制御への変更

VSM ドメインの制御トラフィックおよびパケット トラフィックの制御モードをレイヤ 3 からレイヤ 2 に変更できます。

### はじめる前に

コントロール VLAN およびパケット VLAN として使用する VLAN を作成します。詳細については、『*Layer 2 Switching Configuration Guide, Cisco DCNM for LAN, Release 5.x*』を参照してください。



(注) この作業の各手順を順番に実行する必要があります。コントロール VLAN およびパケット VLAN を割り当てる前に、レイヤ 3 制御をディセーブルにする必要があります。

### 手順の詳細

- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2** [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
- ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4** [Domain Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5** 制御モードのドロップダウンリストで、[L2] を選択します。

- ステップ 6 [Control VLAN] フィールドで、コントロール VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。
- ステップ 7 [Packet VLAN] フィールドで、パケット VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。
- ステップ 8 メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

## コントロール VLAN によるドメインの設定

コントロール VLAN によりドメインを制御できます。

### はじめる前に

コントロール VLAN として使用する VLAN を作成します。詳細については、『*Layer 2 Switching Configuration Guide, Cisco DCNM for LAN, Release 5.x*』を参照してください。

ご使用の Virtual Supervisor Module (VSM) でレイヤ 3 制御が設定されている場合、コントロール VLAN によりドメインを設定できません。まずレイヤ 3 制御をディセーブルにする必要があります。

『*Cisco Nexus 1000V Interface Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)*』を使用して、必要な VLAN インターフェイスを設定してイネーブルにします。VLAN インターフェイスは、複数の VLAN 間の通信を可能にします。

VLAN への番号の割り当て方法の概要 詳細については、『*Layer 2 Switching Configuration Guide, Cisco DCNM for LAN, Release 5.x*』を参照してください。

新規に作成した VLAN は、レイヤ 2 ポートが割り当てられるまでは未使用の状態になります。

### 手順の詳細

- ステップ 1 [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2 [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。
- ステップ 3 [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
- ステップ 4 [Domain Settings] セクションを拡張します。
- ステップ 5 制御モードのドロップダウン リストで、[Layer 2] を選択します。
- ステップ 6 [Control VLAN] フィールドで、コントロール VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。
- ステップ 7 メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

## パケット VLAN によるドメインの設定

パケット VLAN によりドメインを設定できます。

### はじめる前に

パケット VLAN として使用する VLAN を作成します。詳細については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。



『Cisco Nexus 1000V Interface Configuration Guide, Release 4.0(4)SVI(2)』を使用して、必要な VLAN インターフェイスを設定してイネーブルにします。VLAN インターフェイスは、複数の VLAN 間の通信を可能にします。

VLAN への番号の割り当て方法の概要 詳細については、『Layer 2 Switching Configuration Guide, Cisco DCNM for LAN, Release 5.x』を参照してください。

新規に作成した VLAN は、レイヤ 2 ポートが割り当てられるまでは未使用の状態になります。

## 手順の詳細

- 
- |               |   |
|---------------|---|
| <b>ステップ 1</b> | [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。<br>[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。 |
| <b>ステップ 2</b> | [Summary] ペインから、ドメインを作成するデバイスを選択します。  |
| <b>ステップ 3</b> | [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。   |
| <b>ステップ 4</b> | [Domain Settings] セクションを拡張します。  |
| <b>ステップ 5</b> | 制御モードのドロップダウンリストで、[L2] を選択します。  |
| <b>ステップ 6</b> | [Packet VLAN] フィールドで、パケット VLAN として使用する VLAN の番号を入力します。  |
| <b>ステップ 7</b> | メニューバーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。   |
- 

## サーバ接続の設定

Cisco DCNM を使用してサーバ接続を管理できます。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 「vCenter Server 接続の設定」(P.4-9)
- 「vCenter Server 接続の削除」(P.4-10)
- 「vCenter Server への接続」(P.4-11)
- 「vCenter Server からの切断」(P.4-11)
- 「vCenter Server からの DVS の削除」(P.4-11)
- 「モジュールからのホスト マッピングの削除」(P.4-12)

## vCenter Server 接続の設定

Cisco Nexus 1000V を vCenter Server に接続するためのパラメータを設定できます。

### はじめる前に

次の情報を用意します。

- データセンター名
- vCenter サーバ IP アドレスまたはホスト名

vCenter Server 管理ステーションがインストールされて実行されていることを確認します。

ESX サーバがインストールして実行されていることを確認します。

管理ポートが設定されていることを確認します。

vCenter Server が到達可能であることを確認します。

アプライアンスがインストールされていることを確認します。

ホスト名を使用して接続を設定している場合は、DNS がすでに設定されていることを確認します。

vCenter Server に拡張がすでに登録されていることを確認します。この拡張には、Virtual Supervisor Module (VSM) 用の拡張キーおよび公開証明書が含まれます。vCenter Server は、このキーおよび証明書を使用して VSM から受信される要求の信憑性を確認します。拡張の追加および登録の手順については、使用するプラットフォームのマニュアルを参照してください。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、vCenter Server 接続を設定するデバイスを選択します。
  - ステップ 3** [Details] ペインから、[Details] タブを選択します。
  - ステップ 4** [Connection Settings] セクションを拡張します。
  - ステップ 5** [Connection Name] フィールドに接続の名前を入力します。
  - ステップ 6** [Server Name/IP Address] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
  - ステップ 7** [Data Center Name] フィールドに、データセンターが分散仮想スイッチ (DVS) として作成される vCenter Server のデータセンター名を入力します。
  - ステップ 8** プロトコル ドロップダウン リストで、[VMWARE-VIM] を選択します。
  - ステップ 9** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
- 

## vCenter Server 接続の削除

設定した vCenter Server 接続パラメータを削除できます。

たとえば、vCenter Server 設定の修正後に vCenter Server から切断できます。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
  - ステップ 3** メニュー バーから、[Actions] > [Delete Connection] を選択します。
  - ステップ 4** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

## vCenter Server への接続

vCenter Server または ESX Server に接続できます。

### はじめる前に

vCenter Server 接続を作成します。

### 詳細手順

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
  - ステップ 3** メニュー バーから、[Actions] > [Connect to vCenter] を選択します。
- 

## vCenter Server からの切断

たとえば、vCenter Server 設定の修正後に vCenter Server から切断できます。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
  - ステップ 3** メニュー バーから、[Actions] > [Disconnect from vCenter] を選択します。
- 

## vCenter Server からの DVS の削除

vCenter Server から分散仮想スイッチ (DVS) を削除できます。

### はじめる前に

vCenter Server 接続を設定します。

vCenter Server に接続します。

Server Administrator により、接続されているすべてのホストが VI クライアントから削除されていることを確認します。詳細については、VMware のマニュアルを参照してください。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。

## ■ ネイバー デバイスの表示

- ステップ 2 [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
- ステップ 3 メニュー バーから、[Actions] > [Delete VMware DVS] を選択します。
- ステップ 4 メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。

## モジュールからのホスト マッピングの削除

モジュールからホスト サーバへのマッピングを削除できます。



(注) この機能が実行できるのは、[Absent] 状態がディセーブルになっているモジュールだけです。

### はじめる前に

vCenter Server 上の DVS からホストを削除します。

### 手順の詳細

- ステップ 1 [Feature Selector] ペインから、[Inventory] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理デバイスのサマリー シャーシ情報が表示されます。
- ステップ 2 所定の Cisco Nexus 1000V デバイスを拡張します。  
デバイスに関連付けられたすべてのモジュールが表示されます。
- ステップ 3 ホスト マッピングを削除するモジュールを右クリックし、[Delete Host Mapping from Module] を選択します。

## ネイバー デバイスの表示

選択された Cisco Nexus 1000V デバイスに隣接しているデバイスに関する情報を表示できます。

### 手順の詳細

- ステップ 1 [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
- ステップ 2 [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
- ステップ 3 [Neighbors] セクションを拡張します。  
ネイバー デバイスが表示されます。

# 制御インターフェイスの設定

レイヤ 3 制御に使用される制御インターフェイスを設定できます。

## 手順の詳細

- 
- ステップ 1** [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。  
[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。
  - ステップ 2** [Summary] ペインから、所定のデバイスを選択します。
  - ステップ 3** [Control Interface] セクションを拡張します。
  - ステップ 4** [IP Address] フィールドに、レイヤ 3 制御に使用するインターフェイスの IP アドレスを入力します。
  - ステップ 5** [Wildcard Mask] フィールドに、ワイルドカード マスクを入力します。
  - ステップ 6** 管理ステータス ドロップダウンリストで、[Up] を選択してインターフェイスをイネーブルにします。
  - ステップ 7** メニュー バーから、[File] > [Deploy] を選択して、変更内容をデバイスに適用します。
-

# 仮想スイッチのモニタリング

Cisco DCNM では、仮想スイッチ情報を監視できます。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 「[仮想スイッチ サマリー情報の表示](#)」 (P.4-14)
- 「[仮想スイッチの詳細の表示](#)」 (P.4-14)

## 仮想スイッチ サマリー情報の表示

管理ネットワークの仮想スイッチに関するサマリー情報を表示できます。

[Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。

## 仮想スイッチの詳細の表示

管理ネットワークの仮想スイッチに関する詳細を表示できます。この情報には、ドメイン設定および vCenter 接続設定に関する詳細が含まれます。

### 手順の詳細

- 
- |               |   |
|---------------|---|
| <b>ステップ 1</b> | [Feature Selector] ペインから、[Inventory] > [Virtual Switch] を選択します。<br>[Summary] ペインに、各管理対象の仮想スイッチのサマリー情報が表示されます。 |
| <b>ステップ 2</b> | [Summary] ペインから、ドメイン、サーバ、ネイバー デバイス、および制御インターフェイスに関する詳細、ならびにイベントを表示するデバイスを選択します。                               |
- 

## フィールドの説明

ここでは、仮想スイッチ機能の次のフィールドの説明を記述します

- 「[\[Inventory\] : \[Virtual Switch\] : \[Details\] : \[Domain Settings\] セクション](#)」 (P.4-15)
- 「[\[Inventory\] : \[Virtual Switch\] : \[Details\] : \[Connection Settings\] セクション](#)」 (P.4-15)
- 「[\[Inventory\] : \[Virtual Switch\] : \[Details\] : \[Neighbors\] セクション](#)」 (P.4-16)
- 「[\[Inventory\] : \[Virtual Switch\] : \[Details\] : \[Control Interface\] セクション](#)」 (P.4-16)

## [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Domain Settings] セクション

表 4-1 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Domain Settings] セクション

フィールド	説明
Domain ID	ドメインの ID 番号。
Sync Status	コンフィギュレーションの vCenter Server との同期ステータス。
Control Mode	ドメインの制御モード。有効な選択肢は [Layer 2] または [Layer 3] です。
Control Interface	[Control Mode] が [Layer 3] の場合だけアクティブ。制御トラフィックおよびパケットトラフィック用に Virtual Supervisor Module (VSM) によって使用されるレイヤ 3 インターフェイス。
Control VLAN	制御トラフィックに使用される VLAN の ID 番号。
Packet VLAN	パケットトラフィックに使用される VLAN の ID 番号。

## [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Connection Settings] セクション

表 4-2 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Connection Settings] セクション

フィールド	説明
Connection Name	接続の名前。
Server Name/IP Address	vCenter Server のホスト名または IP アドレス。
Data Center Name	分散仮想スイッチ (DVS) としてデータセンターが作成される vCenter Server のデータセンター名。
Config Status	コンフィギュレーションのステータス。有効な選択肢は [Enabled] と [Disabled]。
Certificate Filename	接続に使用されるデジタル証明書のファイル名。
Version	VMware vCenter サーバのバージョン。
Protocol	vCenter Server でセッションを確立するために使用されるプロトコル。有効な選択肢は [VMWARE VIM] または [EMPTY] です。
Port Number	vCenter サーバとの接続に使用される TCP ポート。
DVS UUID	分散仮想スイッチ (DVS) の Universally Unique Identifier (UUID)。
Oper Status	接続のステータス。
Sync Status	コンフィギュレーションの vCenter Server との同期ステータス。

## [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Neighbors] セクション

表 4-3 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Neighbors] セクション

フィールド	説明
Last Updated Time	スイッチから情報が最後に取得された時間。[Get Latest Info] をクリックすると、スイッチから最新情報が取得されます。
Source MAC Address	表示のみ。受信されたフレームの MAC 送信元アドレス。
Type	表示のみ。ネイバー ノードが VSM または VEM であることを示す設定。
Domain ID	表示のみ。ドメインの識別番号。
Node ID	表示のみ。ネイバー ノードの識別番号。
Last Learnt Time	表示のみ。MAC アドレスが最後に学習された時間。

## [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Control Interface] セクション

表 4-4 [Inventory] : [Virtual Switch] : [Details] : [Control Interface] セクション

フィールド	説明
IP Address	制御インターフェイスの IP アドレス。
Wildcard Mask	制御インターフェイスのワイルドカード マスク。
Admin Status	制御インターフェイスの管理ステータス。有効な選択肢は [Up] または [Down] です。
Operation Status	現在の動作ステータスで、[Up] または [Down] です。

## その他の参考資料

仮想スイッチの実装に関連する情報については、次を参照してください。

- 「[関連資料](#)」 (P.4-16)
- 「[標準](#)」 (P.4-17)

## 関連資料

関連項目	参照先
ドメインの設定	『Cisco Nexus 1000V System Management Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』
サーバ接続の管理	『Cisco Nexus 1000V System Management Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』



## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

## 仮想スイッチ機能の履歴

ここでは、仮想スイッチのリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
仮想スイッチ	5.2(1)	リリース 5.1 からの変更はありません。
仮想スイッチ	5.1(1)	リリース 5.0 からの変更はありません。
仮想スイッチ	5.0(2)	この機能が導入されました。

